

平成28年（2016年）の大雪山の火山活動

札幌管区気象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しました。

○噴火警報・予報の状況、2016年の発表履歴

2016 年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
-------------	-------------------

○2016年の活動概況

・噴気などの表面現象の状況（図 1-①、図 2～6）

旭岳地獄谷爆裂火口の噴気の高さは火口上概ね200m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

9月4日から5日にかけて実施した現地調査では、旭岳地獄谷爆裂火口の複数の噴気孔で、噴気温度が100℃以上の高温状態が継続していました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、I-5噴気孔周辺の地熱域がわずかに縮小していました。それ以外の噴気孔及びその周辺の状況に特段の変化はありませんでした。

・地震及び微動の発生状況（図 1-②）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

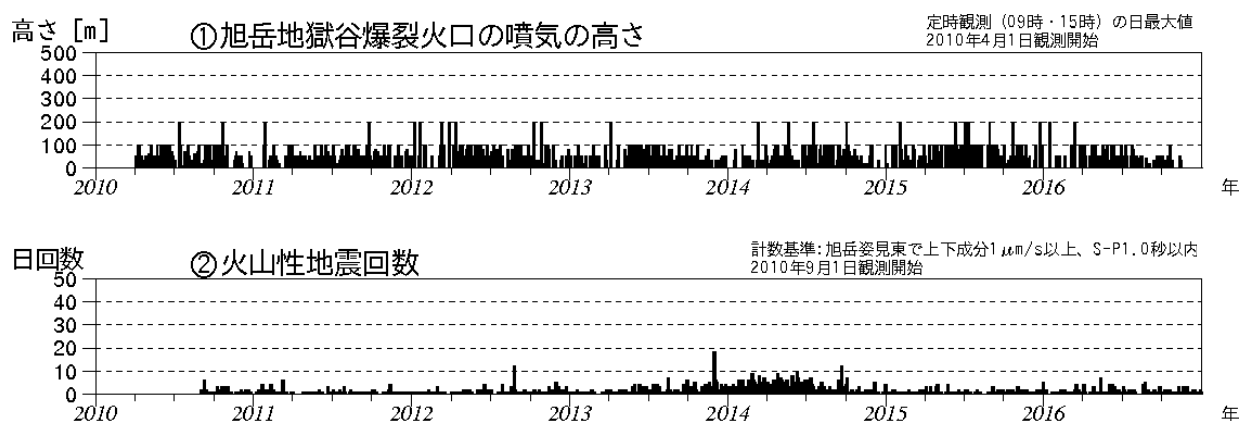


図 1 大雪山 火山活動経過図（2010年4月～2016年12月）

この資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平26情使、第578号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平26情復、第658号）。

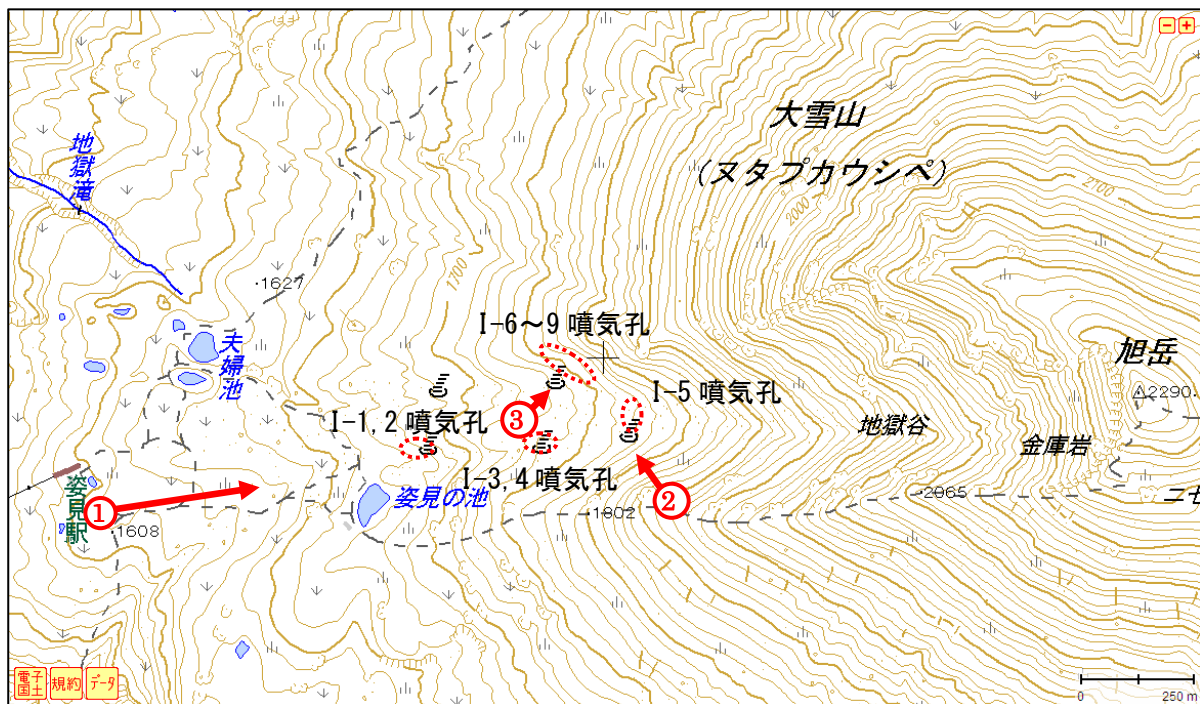


図 2 大雪山 噴気孔の位置（破線囲み）および写真の撮影方向

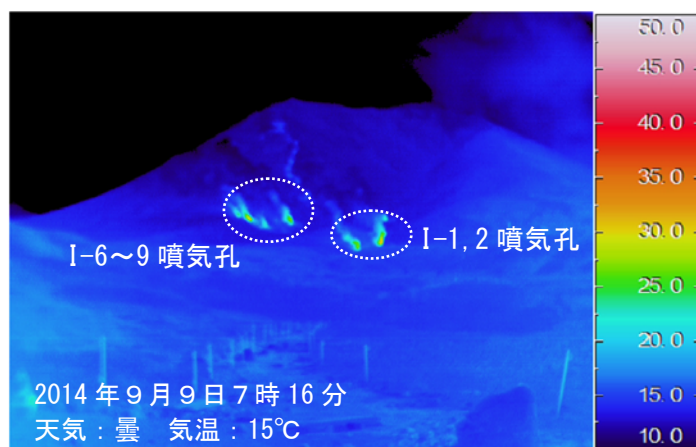
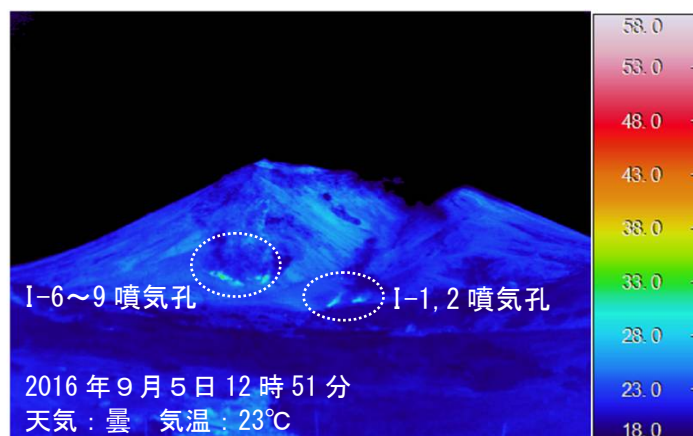


図 3 大雪山 赤外熱映像装置による旭岳地獄谷爆裂火口の地表面温度分布
西側（図 2 中の①）から撮影

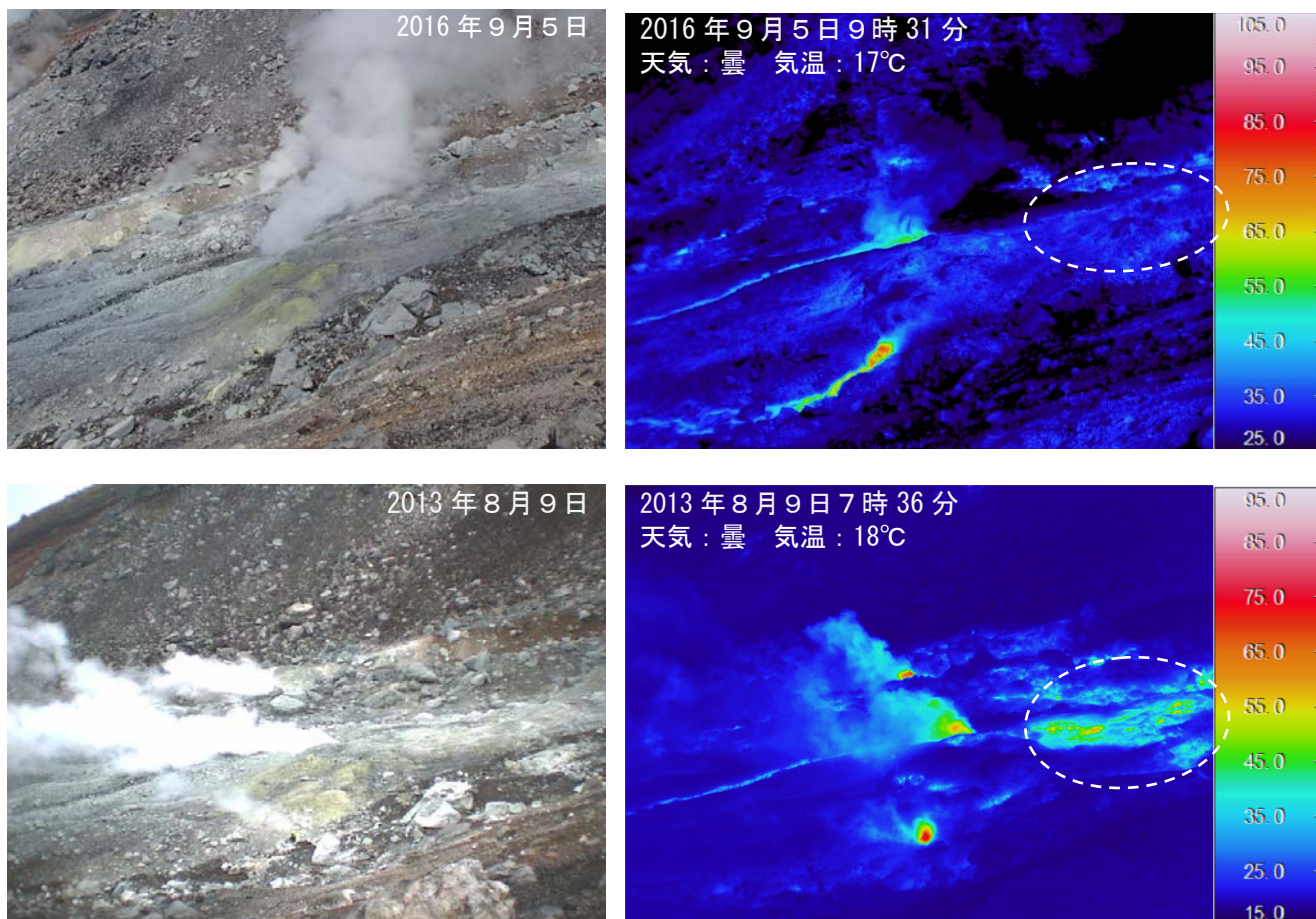


図 4 大雪山 赤外熱映像装置による I-5 噴気孔周辺の地表面温度分布
南東側（図 2 中の②）から撮影
・ I-5 噴気孔南側（白点線内）の地熱域がわずかに縮小していました



図 5 大雪山 I-8 噴気孔周辺の状況
南西側（図 2 中の③）から撮影
・ I-8 噴気孔の温度に変化はありませんでした



図 6 大雪山 西側から見た旭岳の状況（9月30日、忠別湖東監視カメラによる）

観測点情報

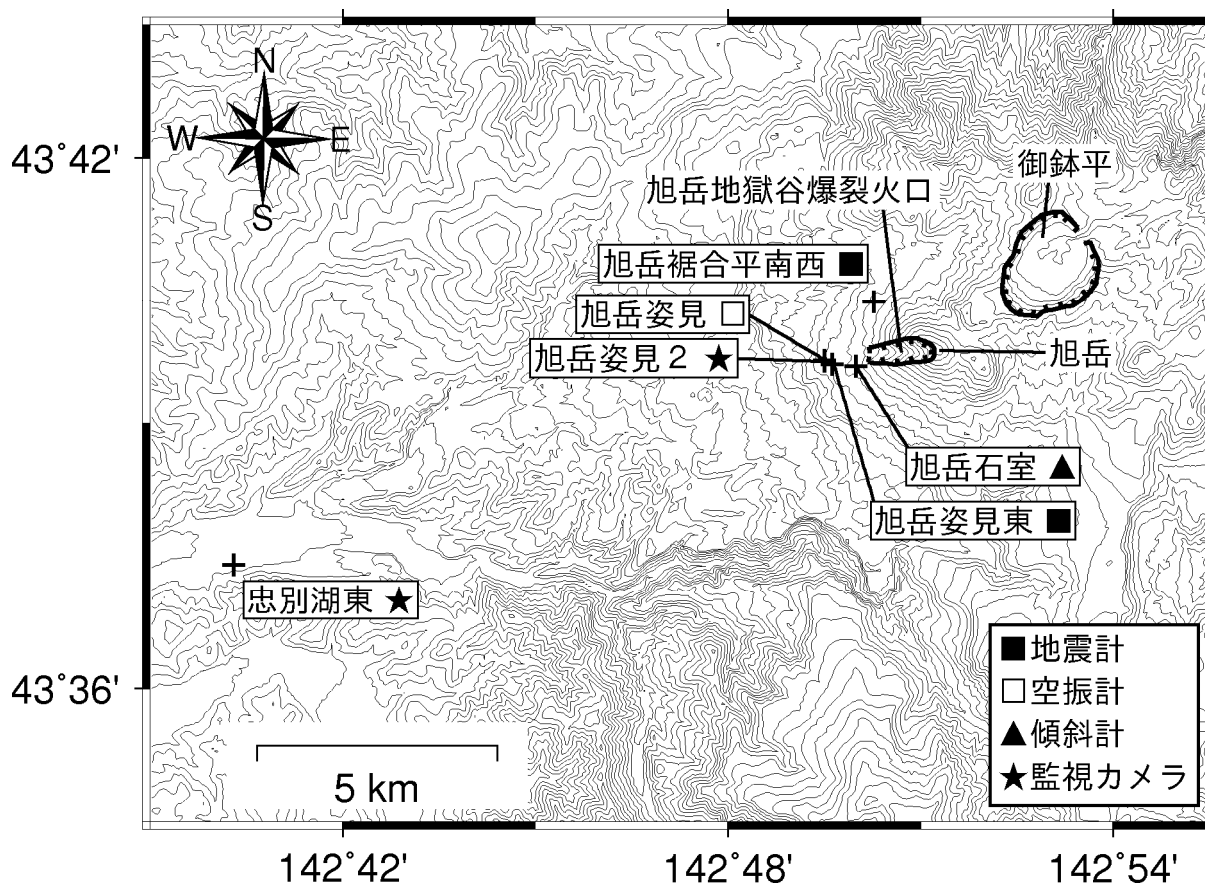


図 7 大雪山 観測点配置図
+印は観測点の位置を示します

表 1 大雪山 観測点一覧（気象庁設置分、緯度・経度は世界測地系）
記号は図 7 に対応しています。

記号	測器種類	地点名	位置				観測開始日	備考
			北緯(度分)	東経(度分)	標高(m)	設置高(m)		
■	地震計	旭岳姿見東	43 39.66	142 49.62	1607	0	2010 年 9 月 1 日	
		旭岳裾合平南西	43 40.37	142 50.26	1709	-2	2016 年 12 月 1 日	広帯域
□	空振計	旭岳姿見	43 39.7	142 49.5	1592	7	2010 年 9 月 1 日	
★	監視カメラ	忠別湖東	43 37.4	142 40.3	430	13	2010 年 4 月 1 日	可視
		旭岳姿見 2	43 39.7	142 49.5	1596	27	2016 年 12 月 1 日	可視、熱映像
▲	傾斜計	旭岳石室	43 39.6	142 50.0	1677	-15	2016 年 12 月 1 日	